

## 会 議 録

|                    |   |        |         |                 |        |   |
|--------------------|---|--------|---------|-----------------|--------|---|
| 会 議 名              | 嵐山町子ども・子育て会議  |        |         |                 |        |   |
| 開 催 日 時            | 令和元年7月1日（月）   | 開 会    | 午後2時00分 |                 |        |   |
|                    |   | 閉 会    | 午後3時30分 |                 |        |   |
| 開 催 場 所            | 嵐山町役場 町民ホール   |        |         |                 |        |   |
| 会 議 次 第            | 1. 開 会<br>2. 委嘱状交付<br>3. あいさつ<br>4. 議 題<br>(1) 会長・副会長の選出<br>(2) 第2期嵐山町子ども・子育て支援事業計画について<br>(3) ニーズ調査について<br>(4) その他<br>5. 閉 会 |        |         |                 |        |   |
| 公開・非公開の別           | 公 開   | 傍聴者数   | 0 人     |                 |        |   |
| 非公開の理由<br>(非公開の場合) |   |        |         |                 |        |   |
| 委員出欠状況             | 会 長   | 田中 恵子  | 出       | 委 員             | 遠藤 恵美  | 出 |
|                    | 副会長   | 西川 光治  | 出       | 委 員             | 小島 誠   | 出 |
|                    | 委 員   | 青木 裕子  | 出       | 委 員             | 和島 俊介  | 出 |
|                    | 委 員   | 田邊 明子  | 出       | 委 員             | 石井 彰   | 出 |
|                    | 委 員   | 権田 ひろみ | 出       | 委 員             | 新井 吉孝  | 欠 |
|                    | 委 員   | 松本 千絵  | 出       | 委 員             | 千葉 恵理子 | 出 |
|                    | 委 員   | 関根 盛敏  | 欠       | 委 員             | 田中 操   | 出 |
|                    | 委 員   | 池亀 竜行  | 出       | 委 員             |        |   |
|                    | 委 員   | 池亀 聡美  | 出       | 出席者14人 欠席者2人    |        |   |
| 事 務 局              | 子育て支援課長 前田 宗利   |        |         | 子育て支援課副課長 菅原 広子 |        |   |

| 次 第     | 顛 末  |
|---------|--|
| 1 開 会   | 前田課長   |
| 2 委嘱状交付 | 町長より委員を代表して青木委員に委嘱状交付（それ以外は自席へ配布）  |
| 3 あいさつ  | 町長   |
| 4 議 題   | <p>(1) 会長・副会長の選出<br/>事務局案＞【会長】田中恵子委員、【副会長】西川光治委員が承認された。</p> <p>(2) 第2期嵐山町子ども・子育て支援事業計画について<br/>事務局より「子ども・子育て支援事業計画」、「嵐山町子ども・子育て支援事業計画中間見直し」について説明<br/>委員＞出生数が100人を切っているにもかかわらず、待機児童がいるというのは、預けたいと考えているご家庭の方がこの園じゃないとだめというような希望を持っているからなのか。<br/>事務局＞国で公表される待機児童の数字には、そのような私的な理由のものは含めません。今年度の4月1日の待機児童の数は9人ですが、実際そのような、この園しか行かないという方を含めると20名くらいになってしまいます。待機児童の一番大きな原因は、共働きの世帯が増えていることです。フルタイムで働いている方も非常に増えておりまして、0歳、1歳のお子さんを預けたいという方も増えています。年齢によって配置すべき保育士の数が違い、0歳だと3人に対して1人の保育士、1歳だと4人に対して1人、3歳だと15人に対して1人と、年齢の低いお子さんが多くなると、入れないという状況が出てくるというのもあります。社会の環境が変わってきたことも大きな要因の1つになります。<br/>会長＞待機児童に地域性はあるのか。<br/>事務局＞3年前、埼玉県で待機児童が出たのは嵐山町だけでした。去年から滑川町も待機児童が出ています。比企郡の中では、鳩山町、ときがわ町、小川町と、みんなもう子供の数も減って、逆に公立の保育園は1つにまとめていこうというような、逆にそういう状況です。現在の県内の状況は、北部のほうはもうほとんど待機児童はおらず、県南のほうで待機児童が出ているということです。<br/>会長＞嵐山町では、公立の幼稚園があり、私立の保育園も大変充実している。せっかくの機会なので各園の状況をおうかがいしたい。東昌保育園さんから、よろしいですか。<br/>委員＞東昌保育園では、園児68名。年齢的にこのクラスが極端に多くて、この学年が極端に少ないということはなく、バランスよくやらせていただいている。子どもというよりかは、どこの園も、もしかしたら抱えている問題かもしれないが、職員の確保というのが少し課題に上がっており、ちょうど昨年度、定年という形で退職者が出て、保育士の確保に非常に苦労したが、何とか人の数は確保できているという状態だ。<br/>委員＞東昌第二保育園は、現在、園児数が全部で71名。第一保育園同様、第二保育園のほうも昨年、定年退職等でやめた職員がいたが、無事に新卒の職員を受け入れ、指導のほうも職員全体で行っているという現状だ。<br/>委員＞若草保育園は、71名定員で現在79名の園児がいる。東昌保育園さん</p> |

もおっしゃったように、職員の確保がとても大変で、近隣だと、東松山市が新設の保育園をたくさんつくっているの、いくら卒業しても本当に足りない状態が続いている。長時間保育等の希望があり、どうしても朝早く、夕方に関しての職員の配置ができず、園長や主任が残ってやるような形になっている。嵐山町だけでできることではないと思うが、免許を持っていなくても、子育てが終わった層の母親たちのパワーがあると思うので、朝早くと夜遅くについて保育士とペアでやらせていただければ、もう少し厚く見られると思う。現在、保育士の免許がないと1人として数えていただけないので、保育園としては、余剰に雇うわけにはいかず、その部分で、働きたいけど免許がない、保育園で働けないという人たちに何か研修するとか何かで、公立、社福の保育園を見ても、小規模保育園はその形がもう少しやんわりするといいなと思っている。実際の時間は、やはり保育士が教えたり、生活習慣をいろいろ教えるということが大切だが、そのお預かりの時間がどうかなければ、もっともっとたくさん預かれるということと、もう一つ、高校を出まして、ご家庭の理由で、保育士の免許を取るためには学校に行かなくてはならなくて、断念している方もいらっしゃるというのを職業安定のところとかで聞くと、そこも、要するにうちに限らず社福で例えば何年か働ければ、何かの科目が免除になるとか、それは町だけで考えることじゃないと思うが、そういうことになれば、そういう方も免許が取れてよいと思う。ともかく保育士の確保がすごく大変で困っている。派遣会社をとっている保育園とか聞くと、年度途中でやめられて、余計何かぐちゃぐちゃになったというのを聞くと、ちょっと怖くて派遣会社の方をまだうちは入れたことがない。だから、保育園に魅力がないのは私の責任なのかと思いつつながら、毎年毎年職員探しをしている。

委員>しらこぼと保育園は、定員45名のところ、今49名のお子さんをお預かりしている。しらこぼと保育園のほうの課題としては、やはり、建物、土地が全部県のもので、運営している私たちも県の出資法人の埼玉県社会福祉事業団だが、建物が狭い。狭いという言い方もおかしいが、基準はぎりぎり満たしているが、本当に子どもの人数とか、保育の内容によってこういうふうに変えてほしいと思っても、なかなか県のほうに了承してもらえないということで、ずっと訴えているが、なかなかしてもらえない。今年ちょっと保護者の方で特徴的だなと思ったのは、朝早くからお預けなされて、帰りもなかなか遅いというか、そういう保護者が増えてきまして、それで、朝張りつける職員も去年より1人多く張りつけないと、子どもの対応が厳しいとか、夕方も1人張りつけなければとか、でも職員数は増やすわけにもいかないというところで、私も、実は保育士の資格を持っていないが、夕方お手伝いという形で、どうしても子どもが多く残っていてこれでは危険だと思うときは、子どもたちの遊び相手という形で夕方入ったりはしている。そのところが去年に比べて、今年、保護者の方も本当にお仕事を一生懸命なされている事情もあるでしょうから、そういうところはちょっと多くなったとは思っている。

会長>今、保育園の現状をお聞きいただくと、どう考えていったらいいのかというのが見えてくるかと思う。私どもは公立の幼稚園で、余り長い時間ではない。スクールバスで迎えに行くと、全員そろうのは9時半過ぎぐらいから、そして2時までというような形でやっている。保育園さんとは違った課題等もあり、また、新学習指導要領のもと、5つの領域と10の目指す姿が

あり、その中で行っているが、やはり職員の確保という点では同じかと思う。だから、そういうリストをつくって、私も何人もの人に当たったというのがあるので、職員がいないとという部分もあるかと思う。

町長>いろいろご意見いただきまして、ありがとうございます。今回、この教育の無償化の中で、一番この問題にご父兄のほうでされるのが保育の質を確保してほしいという強い希望があります。それで、遠藤先生のおっしゃるような形のようなものも、我々とすると、もうちょっとどうにかして、保育園の先生の確保がやりやすいような状況はできないだろうか、それでこういう窮状だから、苦しい状況だからできるだけ先生を増やして、それで保育を受けたいという人の窓口を広げたいという思いはありますが、一方で保育の質、これをしっかりやらないといけないということで、なかなかハードルを低くするというのは難しいです。国のほうとすると、何としても最低限のそこのところだけは確保してやっていくというような話になってしまいます。それで、今回も無認可も入れるとか入れないとかありましたが、このところは最低限度のところまで、町でしっかり見て、そこはオーケーしようとか、どうするというようなところまでなったわけですが、そういう保育の質の確保というのは一定程度のところはしっかり国のほうでガードしているという状況であります。それと、先ほど保育を受けたいという人というのがありました。嵐山町で待機児童が起きてしまった。その背景というのは、嵐山町の周りのところの雇用状況というのが大変強く、会社の中で人が欲しいというところが嵐山町を中心として強かったというようなことが多かったと思います。

会長>今、いろいろ保育園の現状をお話しいただき、町長さん、大変そういった子育てのことにに関してすごく熱心にお取り組みいただいている、そういうことにとっても詳しい。だから、私たちも嵐山町のためにこういうふうにしたらいという思いを聞いてもくださるし、できること、できないことがあるが、一緒に考えていくということで、本当に理解があつてよくわかっていらっしゃるというのは、なかなかない。

それでは、今、保育園関係の皆様からお話をいただいたが、ほかはいかがでしょうか。

委員>遠藤先生のお話に大変共感し、私自身がそうだからというのもあるが、昔、保育士になりたくて、でもちょっといろいろあつて資格がなくて、でもやっぱりちょっと子どもと一緒に保育園とか幼稚園、子どもと何か戯れたりとか、携わりたいなというのがあり、ある程度、子どもも中学生とかになって成長して落ちついてきたので、少し働きたいと思つても、なかなかありそうでない。近場、嵐山町内で短時間の仕事といつてもなかなかなくて、あつたとしても、まだ子どもがいると雇ってもらえなかったりして、だから、結構そういったお母さん方はいるのではないかとか思つたりして、朝の短時間とか、夕方の短時間とか、あと、資格がなくてそういったことに協力できる仕事というか、ボランティアでもあれば、すごくお子さんのためにもなつて自分のためにもなると、ちょっとそんなこともあつてすごく共感した。

会長>保育士という立場ではなく、今、園とか、それから家庭や地域で子どもを育てるといふところで、安全面の確保とか、そういったところはできると思う。例えば私の幼稚園でも、ジャガイモ掘とか、そういったときには20名以上の方がお越しくださっている。そういったところがやはり子どもたちに目が届くし、そういった部分で、教師が一生懸命、質を向上させようとい

う今のお話に出たが、そういう中で支援はいただけると思ったので、そういったボランティアの方を保育園、幼稚園も。

委員>おそらく、仕事としてやりたいと思う。

委員>仕事になるといいと私も思う。うちとしても仕事としてやっていただける人が欲しくて、例えば免許がなければ、2人で1人分になるとか、そういうふうになるといいと思う。ただ、保育の質のことを町長さんがおっしゃっていたように、免許がなくても見られる年齢層というのがある。ただ、保育園というのは、うちも全く免許がない方に一度来てもらったことがあり、給食の食べさせ方とかは、ご家庭と違うところもあると思うので、来る前にも研修みたいなものをすべきだと思う。こういう仕事であるということ、見る前に研修みたいなものがないとやはり無理があると思う。これは理想論になってしまうが、例えば、ご家庭で子育てが終わった60歳を過ぎている方でもお手伝いをしてもらえるような仕事はあるし、子育て途中の方でも手伝っていただけるお仕事があるが、保育士の免許がないとそういうのが一切できず、全く知らないとやはりびっくりすることもあると思うので、研修制度みたいなものがあったりして、いずれ働けるようになるといいと思う。実際、免許があっても、本当に転々と働いている方とかもいらっしやったりするので、免許だけが全てではないと、これは私個人の意見で、ほかの園長先生は違うかもしれないが、保育士の免許だけが全てを左右しないと思っているので、働ける人もいると思いつながら、保育士が雇えないと、今年は定員ぴったりというか、定員の形になってしまう。本当に保育士がいない。町長さんがおっしゃったように、多分会社が立ち上がって新しい保育園ができて、すごく今この地域がいいと思うが、人のとり合いみたいな形になって、やはり保育士は遠くからは通って来ないので、近隣に住んでいる人に限られて、あまり遠くから来ても、朝早くとか遅番とかがあって、やはり女性の方だと子どもも心配なので、厳しいと思うので、何かそういう免許のない人が採れるようなシステムができるといいと思う。

会長>今おっしゃったように、なかなか人の正式な確保というのは難しい部分があり、私も以前は小学校にいて、ボランティアという形で、年間何百人という方にお世話になったが、そのときは、事前にお越しいただき打ち合わせをして、こういう狙いでなどをお願いをして、その趣旨でボランティアをやっていただいた。ですから、今、田中委員のもっと温かいすばらしいお話があったので、そういったお気持ちのある方に活躍をしていただく、ボランティアとか、そういう、嵐山町はとても温かいまちなので、そういったこともできると思う。そのためには、やはり研修、あるいは事前の相談、ただ、負担軽減というものもあり、そういったことを上手にやるシステムができるといいと思う。貴重なお話ありがとうございました。

会長>民生委員の皆様は、ご家庭とか詳しくいらっしやると思うので、いかがでしょうか。とても元気で、社会のために保育園や小さな子どもたちのために応援に行きたいという方がいらっしやるとかそういう話がありますか。子育て広場のお話と、よくわからない方もいらっしやると思うので、そういった取組をお話しいただいてもよろしいでしょうか。

委員>子育て広場には、就学前のお母さん方がお子さんを連れて、楽しく過ごし、また、ほっとできる場所ということで、そういった居場所づくりをお手伝いさせていただいている。子育て広場に参加できるお母さん方は、お話を聞くと、幼稚園にお子さんを入れるというふうな気持ちを持っている方が

多いように感じる。お母さん方の中にも、保育士の免許を持っていらっしゃる方もおられますし、子供を預けた後はそういった仕事につきたいという方、復帰したいというお話もお伺いするが、子育て広場では、そのような感じで嵐山幼稚園さんのさくら教室のほうに通いながら、2年保育の年中さんに入ったというお話を伺ったりもしている。お伺いしたいのだが、嵐山幼稚園に民生児童委員の児童福祉部会で研修に以前伺わせていただいたことがあり、そのときに預かり保育か、本来は2時ぐらいまでということだが、働き方によっては預かり保育というものがあるというふうに伺い、そこに預けながら働けるお母さんもいらっしゃるというふうに伺ったのだが、そういったことを多くのお母さん方がもしご存じで、嵐山幼稚園のほうにも働き方によっては預けることができるのか、もしおわかりであれば、お伺いしたい。委員>民生委員の会議のほうでは、高齢者のサポートということではいろいろなヘルパーの養成講座の内容とかもあり、ヘルパーの資格を持っていないくても、研修を4日間ほど受けたら、そのヘルパーのかわりになるような事業というものも教えていただけたので、もし子育てのほうでもそのような研修を受ければサポートができるようなものがあれば、お手伝いをしていただける方が何人か出てくるのではないかと思う。

委員>今、主任児童委員のほうからお話がありました。権田委員のほうのアイデアというのは、子育てが終わった60代ぐらいの方のお力が、朝早くとか、夕方遅くとか、資格がなくてもというお話が毎回遠藤先生から出て、私もそれを聞くたびに胸が痛む。私がもう少し若かったらさっさと行くのにはと思うが、もういろいろ大変で。今、だから、権田さんのほうからお話しした、高齢者のサポートというものがある。それと同じように、保育園のほうでも、そんな子どもの安全とか、救急とか、命をお預かりしているわけだから、研修を受ければそういうお手伝いができるみたいな、いいアイデアを出してくれた。あと、お母さん、今、2人がお話ししてくれたとおりに、子育てを楽しみたいという方も中にはいらっしゃる。子どもを預けて誰もが働きに出るといふようになり、私としてはもう少し子育てを楽しんだらいいと思うが、なかなかそれが言い出せないで、社会の情勢が変わってきたから、皆さん働きに出たいということで、でも、中にはやっぱりそういう子育てを楽しんで、今だけだから大事にということで、少し年齢がいったら、さくら教室に通わせてみたり、あと、ちょっと預かってもらって、短時間、自分の余暇、美容院行くにしても、買い物に行くにしても、そういうところでちょっと気分転換を図るといふようなお母さんのお話を最近結構聞くようになった。実際、働きに出ました、預けました。時々ふっとそういう方が見える。本当に、何人でもないが、大変で、子どもを保育園に預けて、働いて、子どもを迎えに行って、家事をやる。まだまだ男性の、お父さんの育児に関する会社の制度などが整ってないと思う。

会長>5年7カ月保育園に預けた私としては、耳が痛い話もあるが、本当に保育園のありがたみというのは、私も実感しているところである。だから、本当にパワーがある。嵐山町には本当にすばらしい方がいらっしゃるの、そういった方々がボランティア、サポーターとして活躍ができる、本当に金銭的なことではなく、子どもたちのためならボランティアするという方がうちの幼稚園の地域にもたくさんいらして、今日もそういうお話が評議員会でも出たが、幼稚園のために頑張るみたいなお話をいただいた。せっかくなので、千葉委員、今日午前中、評議員会もあり、そういった親御さんの立場と

か、評議員の立場で何かあったらお願いします。いろいろ支援をするというお話をしてくださったと思うので、こういう支援をしていただいているというお話をお願いします。

委員>嵐山幼稚園には、近くに畑を持っていらっしゃる方がいらっしゃるのので、そこで園児と先生方とボランティアの方々とでジャガイモを掘ったりするなど、あとは、今だと、ラベンダー畑のほうに行かせていただいて、ラベンダーをとって、家のほうにお土産として持ち帰ってくる。いつもお世話になっております。餅つきも地域の方々の協力を得ていろいろやらせていただいている。ありがとうございます。

会長>放課後の子どもたちの担い手ということで、学童のほうはいかがでしょうか。

委員>私は七郷小学校のところにある学童で、菅谷、志賀のほうの学童の現状も、少しずついろいろ情報交換しているところではあるが、自分のところぐらいしかしっかり話ができない。先ほども各保育園、保育所、幼稚園等々、預けるおうちが多いという話があり、やはり学童のほうとしても、学校の授業時間が少し長くはなってきたが、学校としても、どんどん学校の規模にかかわらず預けられる家庭が多くなり、子どもたちのほうも、そういう意味で、短い時間ではあるが、すごく有効にというか、学童のほうに来て一緒に遊んだり、おやつを食べたりということで、全体的には生活として過ごさせてはいただいている。

会長>長時間にわたりましてご意見をいただきありがとうございます。ただいまの第2期嵐山町子ども・子育て支援事業計画については、これでご理解をいただいたということでしょうか。

それでは続きまして、(3)のニーズ調査について、ご説明をお願いします。

### (3) ニーズ調査について

事務局より「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査結果報告書」について説明

会長>ありがとうございました。こんなに丁寧な細かい調査があるのかというふうに思う。1から10まで、それもまた細分化されており、集計も大変だったのではないかと思います。本当に膨大な資料を短時間でご説明ありがとうございます。それでは、質問等いかがでしょうか。

事務局>補足でお話をさせていただきます。このニーズ調査につきましては、最後の11番だけが嵐山町が独自に加えた項目で、ほかのものについては、国から指定されている項目です。それで、これをもとに国から示されている数式で実際のニーズ量の数字を出します。そして子ども・子育て支援事業計画の数字に落としていくということになります。それで、あくまでこれはニーズ調査の概要のお話をさせていただきましたが、次回以降は、これを数値化して、その数値をまた議論していただくというふうになりますので、よろしくお願いたします。

会長>本当に綿密な調査があって、また嵐山町独自の項目も加えていただき、それが最初に説明のあったこちらの事業計画に反映をしていくということで、すごいことだと私は思う。

では、ご質問ないようで、先ほどお話を伺わなかった方に何かお話をと思う。うちの園バスが通ると、いつも社会福祉協議会の前で、先生の皆さんが手を振ってくれる。だから、きっと大きなかわりを持っていらっしゃると思う

ので、その点のご紹介をお願いしたい。石井委員、お願いします。

委員>社協のほうで町から受託している嵐丸ひろば、こちらのほう、人気度、このアンケートでいうと本当に高い数字が出ている。この利用している方の割合というか、30年度の結果を見ますと、町内の方が60%、嵐山町以外の方が4割ということになっている。社協の評議員会等、先月あったが、こちらのほうでも町外の方の利用の関係等でもいろいろな意見があり、こちらのほうも関係してくるが、広く一般に町内の方に使っていただくのは結構だが、その町外の方の利用の仕方というの、今後うちのほうで検討も、町のほうと協議をさせていただいていければというふうに思っている。

事務局>嵐丸ひろばは本当に非常に多くの方に使っていただいています。これは駅の2階にあります、駅ということでもいろいろな方が見えます。当然、町としては、嵐山町内のお子さん、ご家庭を対象にしたいということでしたのですが、駅ということもあって近隣から来る人もあるので、そういう方も、最初は有料で、料金を取ってと思いましたが、できれば無料で使えるようにしたらどうだろうということがあって始まりました。ふたをあけてみたら、大体滑川町の人が多くて、3割ぐらいが滑川町の町民の方で、あとは嵐山町ということで、当然滑川町も待機児童が多いですから、そういったことで、当初はそういった話でできているということなので、嵐山町が当然町外の方も含めて使ってもらおうという意向もありました。昨年度からそういう話もありましたので、非常に、それでも滑川町に申し入れをしてお話をさせてもらっていますが、このぐらい嵐山の嵐丸ひろばに滑川町の方が来ているというお話をさせてもらって、一応今年度から滑川町さんでもそういった広場を週3回、月の輪小学校の学童保育室を午前中に使って、週3回、広場を開くようにしているということです。だから、まだ週3回なので、なかなか数字的には減ってはこないのですが、もっと滑川町が一生懸命そういった事業をしていただければ、減ってくるのではないかと思います。滑川町さんにはそういう施設が実はないようです。嵐山町は結構あるのですが、そういう意味では、滑川町からの利用者が多いというのが現状です。

会長>嵐丸ひろばはとても人気があり、先駆けの取組です。私もそういう、あまり知らなかったのは申しわけないが、園児はバスで通ると、嵐丸ひろばには何があって、これがあるとずっと説明する。本当によく行っている。だから、魅力的なところなのでほかからも来る。またほかにも影響を及ぼしているということで、これからもぜひさらなる充実をよろしく願います。それでは、目があって、松本様、何かございますでしょうか。

委員>ニーズ調査の結果報告書、すごく厚くて、集計するだけでも大変なのに、質問内容もすごく細かくて、よく読んでないので何とも言えないが、多分本当に細かいところまで町民のことを、子育てのことを考えてくださっているのだと思う。説明の中で、多分園庭を開放してほしいという回答が多かったというふうにあったが、その一つとして、玉ノ岡で回答するのは2回目だが、1度目のときに中学校の役員のお母さんと話したときに言っていたのが、意外と嵐山町は遊具のできている、ちゃんとした遊具のある公園がないというふうにおっしゃっていた。それこそ役場のところに、以前は子どもが遊べる遊具があったが、あれが木か何かでできていたので、それが腐ったか何かはわからないが、撤去されて違うものになってから、その公園、すごく使っていたのに使えなくなってしまったという声を聞いたこともあって、それで多分こちらの保育園の皆様方に、先生方は大変かもしれないが、



園庭を開放していただければ遊べるのではないかという考え方があっての園庭開放を望んでいることだと思う。それと同時に、小学校のほう、うち七郷小出身なのだが、小学校の学童を利用している方が多いというか、学童を利用したいという方も、多分子どもが遊べる部分が少ないので学童に入れることによって学童で遊ばせてもらえる、校庭で遊ばせてもらえるということがあるから学童を利用したいというのが多いのかと思っている。それこそ和島先生はご存じかもしれないが、別に学童入ってないが、小学校が近いからということで、わざわざまた学校へまた戻ってきて遊んでいる子どもの中にはいたと思うので、そういう意味で、多分遊び場が少し欲しいのだろうということで、園庭開放だったり、学童を利用したいというのが多いのだと思う。個人的には、私自身は、子どもは2人とも幼稚園で主人の両親が面倒を見てくださった部分もあったので、七郷は結構、多分跡取りの方とかが多いから、ご両親が見てくださることもあるとは思いますが、それでもやはり遊び場が欲しいという部分もあるというふうに思う。高校のほうで役員も務めていたが、役員のお母さんたちの中でも、やはり町なか、坂戸のほうとか、東松山のほうとかだと、やはり働いていると、そういう学童や保育園を利用しないと面倒を誰も見てくれないからすごく大変という話を聞いていたから、土日はどうしようって悩んでいるお母さんとかも、高校のほうで話を聞くので、そういった意味で、大変かもしれないが、園庭開放とか、そういう校庭開放はいいことだと個人的には思っている。

会長>今、家でゲームとかしている子どもたちが多く中で、外の遊び場を求めるとい意見は本当にすばらしいと思う。また、子どもたちも地域で遊ぶと、サッカーボールでガラスを割ったとか、この草むらに入ったとか、私も前はそういうところに勤めていたので、苦情の対応に追われたりしたが、それゆえに、学校で、あるいは幼稚園、保育園で遊んでくれるといいと思う。うちの幼稚園もたくさん遊びに来る。また、一般の方も幼稚園や赤十字の施設があるので、そういった見学にお越しになり、絵を描く、写真を撮る、そういった楽しみもここなら大丈夫という感じで、開放できればいいと思う。今のお話は、やはり内に入り込む子どもたちではなく、外に、本当に外遊び等がやりたいというお子さんが多いというのはすばらしいことだと思う。それでは、膨大なこの調査、本当に大変だったと思う。これがまた次回、数値としてということなので、また皆さん、これをご覧いただいて、次のときに臨んでいただくということで、ご意見等はよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、この件については、ご理解をいただいたということでよろしく願いいたします。

では、次第に(4)その他というのがございます。皆様から何かございますか。では、よろしく願いいたします。

#### (4) その他

事務局>次回の会議は8月の下旬を考えている。

会議録署名人を指名させていただく、青木委員、田邊委員にお願いする。

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和元年 8月 22日 署名委員 青木 裕子

令和元年 8月 22日 署名委員 田辺 明子